

価値観を変えた運動会

私も人生の前半は「戦いなき、努力なき、人より抜き出なき」という三次元的な競争社会の価値観に操られてきた人間です。ですから、そちらの世界を知らないわけではないし、その競争からドロップアウトした方でもないんです。

私は三十歳で結婚しまして、なかなか子供がでなかつたんですが、三年経ってやっとできた子供が障害児でした。

この子が小学校六年生のときにこういう事件があったんです。

その日は運動会で、朝、その娘と母親が手をつないで出かけようとしていたときに、母親がとでもニコニコしてたものだから「なんか、えらく楽しそうだね」って声をかけました。

私は、原稿を書かなくてはいけなくて、一人家に残る。妻がこう答えました。「今日は、もしかするとうちの娘がビリじゃないかもしれない」って。

どういふことかと言いますと、娘は、染色体の異常で体の筋肉が人の半分しかなくて、基礎体力も筋肉も発達してないがゆえに、走らせると人の三倍から四倍かかるんですね。

小学校一年から四年までは五〇m走なんですけど、五年生から一〇〇m走になる。ずーっと八人で走ってきて八番目。つまり、いつもビリだったんです。

まあ、私も妻も、勝つ必要はないって思っているんですけど「今日は、もしかするとビリじゃないかもしれない」と、妻がニコニコしながら言っている。

「どういふこと」って聞くと、クラスの中に一週間前にケガをした女の子がいるんだそうで、足首に包帯をグルグル巻いて一週間通って来ている。「ケガをしているんだから、徒競走はやめたら」って先生が言ったら「いや、どうしても走りたい」ってその女の子が言ったんだそうです。

で、その女の子と娘が最終組で走ることにした。もしかすると、初めてうちの娘は七位になるかもしれない。七位になろうが八位になろうが、全然かまわないし、こたわってないんですけど、嫁さんがそんな話をしながら楽しそうに出かけて行きました。

で、四時ぐらいに、またニコニコして帰ってきたんですね。

「どうしたの。楽しそうだけど、七位だったの？」

「それがね、やっぱり八位だったのよ」って言うんです。

私はケガをしていた女の子はどうなったのか知れたかったので、「その子はどうなったの」って聞きました。そうしたら、こういう状況だったそうです。

ヨイドンで走り出して、他の子供たち六人が五〇mぐらいの所にいたときに、娘は一五m、ケガをしているので足を庇いながら走っていたその女の子は一〇mぐらいの所にいたらしい。

娘の方が速かつたらしいんですが、その一〇mぐらいの所でその女の子がケガのためにやはり走りにくかつたんでしよう。「キヤッ」と声を出して転んでしまった。その転んだのを見たうちの娘が、「どうしたの？」って足を止めて、トコトコと逆走しまして、その子を助け上げて、その子の腕を持って、ずつと残りの九〇m一緒に走って、ゴールの手前で女の子の背中をポンッと先に押してから自分がゴールに入ったそうです。

でね、結局ビリだったんです。また。

でも、ゴール手前一〇mぐらいの所で、もう一度テープが張り直されて会場が割れんばかりの大拍手、大歓声に包まれたということなんです。「とても感動的なシーンだった」って嫁さんが言っていました。結果としてビリだったんですけど、うちの娘は帰ってきてニコニコしながらテレビを見ているという状態だったんです。

その話を聞いたときに、私は非常に衝撃を受けました。

楽しい人生を生きる

宇宙法則 小林正観より

いかが感じられたでしょうか？

私は、何ともいえない感情が胸にこみ上げてきました。

私は、薬屋としても二十数年この仕事をさせて頂いています。今、一番お客様から支持を頂いている症状は(腰・肩・ひざなどの痛み 鼻炎・痔・ダイエット)で、二番目は(癌・肝臓・喘息・アトピー アルツハイマー) なのです。

その意味を考えると、一番の支持の症状は、私自身が苦しんだ事がある症状で、一番目の支持の症状は、私自身の家族が苦しんだ症状なのです。

なぜこのような結果になっているかは、きっとこれらの症状の苦しさがよくわかっていからだと思います。

最高の薬屋は、もしかしたらお客様が苦しんでいる病気を全部、自分が経験している薬屋かもしれません。

私もどう治してあげるとかじゃなく、しっかりとあらゆる病気症状を勉強し、まずどんなに苦しいのか、辛いのかを学ばなくてはいけないと思います。

病気ではあるけれど、元気にされている方の多くが、まるで自分の事は棚にあげて、他の身内などをしっかり思いやられる方が多いような気がします。

私も、この文の少女のように、少しでも真の思いやり・やさしさをもつ人間になれるように生きていかなければと思います。

P.S.

昔、指圧の勉強をしていた頃、指圧の先生が『肩一つ揉むのも無償の愛で揉む場合は、本当に元気になるのは、揉んでもらっている人より揉んであげている方なんですよ』とらった事を思い出しました。

くすりのキューート

倉光 浩城

